



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／小野 仁
- 副会長／宮坂宥澄・佐藤有司
- 幹事／山岸邦太郎
- 会報・雑誌・広報委員長／林 尚孝

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939 ・ URL:<http://okayarc.org> ・ E-mail:okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2545 回例会 2011 年（平成 23 年）11 月 8 日（火）

点 鐘：小野 仁 司 会：笠原祥一
斉 唱：君が代・奉仕の理想 ラッキーNo.：No.22 小口泰史
結 婚 祝：小口成人・藤森睦美・中畑隆一・北村正春・原 史郎

会長挨拶

スポーツ新聞に毎日のように書かれている、菅野智之投手の動向が注目されています。伯父が巨人軍の原監督で、誰もが巨人以外は指名しないと思っていたところ、突然日本ハムが指名し、くじで日本ハムが交渉権を得たことは皆様ご承知のことと思います。

私が思うに監督は使いにくいし本人も他の選手との軋轢も起こるし、ここは他人の飯を食べるのが自分の為だと考え、黙って日本ハムとの交渉に臨んでももらいたい、そして成績を残せばいつの日にかフリーエージェントの資格が取れ、希望の巨人に入団もできます。

プロに行きたいが指名されなかった球児はやまほどいます。若い会員の皆様は知らないと思いますが、あの江川の空白の一日、一日だけ阪神に入団して、次の日に巨人の若きエース小林繁とのトレード、熱狂的な巨人ファンだった私はそれ以来今でもアンチ巨人を貫き通しています。当時読売新聞は部数を大幅に減らし世の批判をあび、失ったものは非常に大きく更にその年阪神の小林投手は巨人に 8 連勝をしました。まことに溜飲が下がった記憶があります。その小林繁氏は今年逝去し今はもうこの世にいません。

会長報告

- ・ 矢崎宏明会員より退会届が出されました。過日の理事会にて承認されました。
- ・ 埴里 RC より 47 年周年記念式典の冊子が届きました。当クラブも招待されましたが日程的に難しいという事で、2 月に訪問する事になりました。

幹事報告

- ・ 10/29 につつじが丘学園祭があり出席してきました。また、川瀬園長より礼状が届きましたので、併せてご報告します。



卓 話 「震災後の経済回復と円高問題」

塚田 保則 会員

転勤早々にお話させていただいて、2回目になりますが少々緊張気味です。今回は「震災後の経済状況と円高問題」といったテーマでお話させていただきます。

今回のテーマが皆様におきまして、少しでもお役に立てればと思います。本日の講演内容ですが、4つのテーマに沿ってお話しさせていただきます。

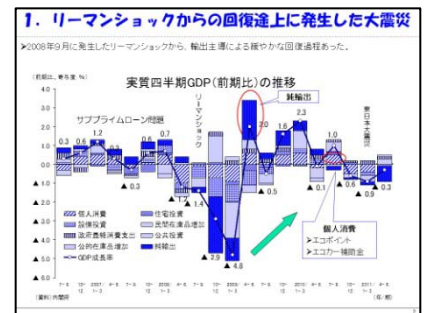
まず、1つ目としまして、3月11日に発生した東日本大震災が日本経済に与えた影響について簡単に振り返ります。2つ目は、震災後のサプライチェーンの回復に伴い持ち直しに転じている県内景気を考察します。3つ目は足元の円高について考えてみたいと思います。4つ目は、中小企業が、円高にどのように対応しようとしているのかを見ていきたいと思います。

本日の講演内容

1. リーマンショック回復途上に発生した東日本大震災
2. サプライチェーンの復旧に伴い景気回復へ
3. 懸念される円高の長期化
4. 求められる企業の対応

これは、四半期ごとに内閣府が発表しているGDPの推移をグラフにしたものです。

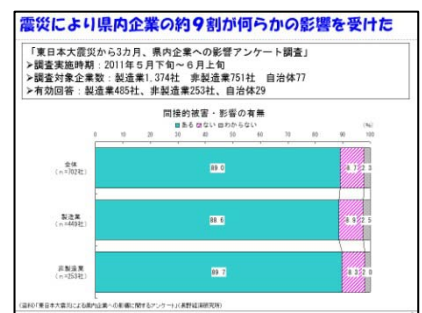
ご覧頂くと、2008年のリーマンショックで大きく落ち込んだものの、それ以降は、輸出と個人消費がけん引し、持ち直しの動きが続いていました。しかし、エコポイント制度など景気刺激策が一巡もしくは終了した昨年の10-12月にマイナスに転じました。当時の見通しでは1-3月期からプラスに転じて、2011年は緩やかな成長が続くとみられていました。



しかし、3月11日に大震災が発生し、製造業における操業停止や消費者の自粛の影響が大きく、1-3月期のGDPは△0.9(年率換算△3.5)となり、2四半期連続のマイナス成長となりました。4-6月期についても、同時期ではサプライチェーンの寸断による供給制約の影響が大きく、自動車の輸出などが大幅に減少して前期比△0.3(年率換算△1.2)となり、3四半期マイナス成長が連続する結果となりました。内訳は、個人消費が△0.1%減で、3四半期連続のマイナス。自動車などの販売減に加え、節電を背景に電気料金が減少。震災直後にまとめ買いが起きたカップ麺なども低迷しました。

一方、設備投資は復興需要も後押しし、0.2%増と2四半期ぶりのプラス。また、公共投資も仮設住宅の建設などで3.0%増と6四半期ぶりに増加に転じました。輸出は4.9%減で、自動車などが大きく落ち込んでいます。また、原発事故を受けて旅行を敬遠する動きがみられた訪日外国人の出費も減少しています。4-6月期の事前予測では、民間シンクタンク10社の予測の平均値は前期比0.7%減、年率では2.5%減であり、予想ほどは落ち込みませんでした。

製造業、非製造業ともに約9割に影響があったと回答しています。すなわち、ほぼすべての企業に何かしらの影響があったといえます。



これは、内閣府から発表されている「景気ウォッチャー調査」という統計で、一般の消費者が肌で感じる景況感を指数としてあらわしたものです。これを見ますと、08年9月のリーマンショックの時と同様に、震災直後はさすがに大きく落ち込んだことが分かります。

震災後の消費自粛ムードが暫く続くとみられていましたが、順調に回復しており、6月には震災前の水準を取り戻しています。小売も回復基調が続いておりまして、6月のコンビニエンス売上高が前年比二桁増を記録するなど消費の回復が鮮明となっています。生産増→投資増→雇用増→消費増といった前向きの循環が生じ易く、個人消費は堅調さを増す見通しとなっています。

県内製造業の生産は、業種によって水準にばらつきはあるものの、総じて持ち直しに転じています。

これは、経済研究所が四半期ごとに実施している業況アンケートの調査結果になります。

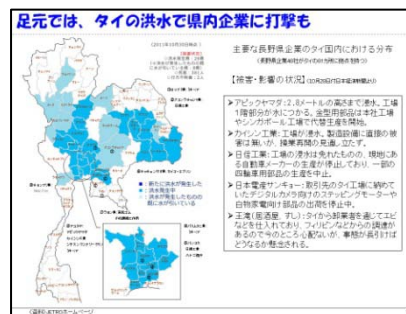
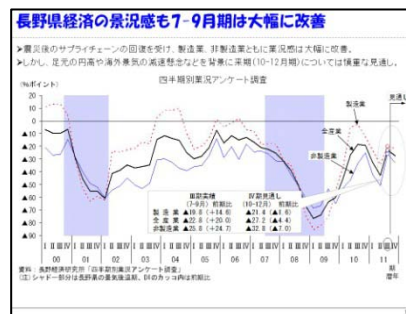
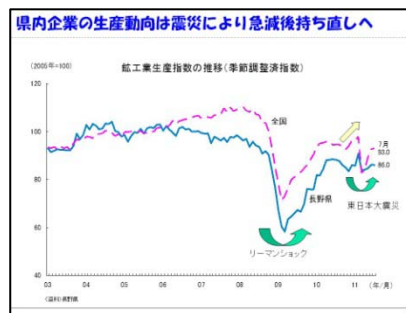
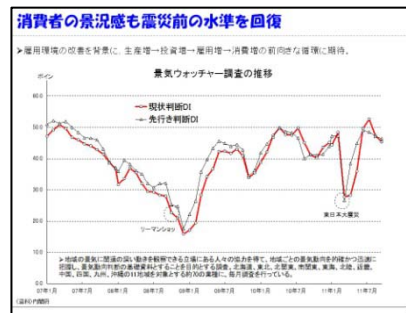
この調査では7-9月期の現況と10-12月期の見通しをお聞きしており、震災の影響が反映されています。これをみますと、長野県内は製造業、非製造業ともに現況は改善しています。ただ、10-12月期以降については弱含みの兆しがみられ、足踏み状態が懸念されます。

加えてタイの洪水問題が深刻さを増しています。タイでは7月以降、大雨が続き、9月あたりから各地で洪水の被害が深刻化してきている。現地拠点への間接的な被害に加え、取引先が被災して発注が滞るなどの間接的な影響も拡大しつつあります。洪水が首都バンコクにも押し寄せており、更なる被害の拡大が懸念されます。五十年ぶりと言われるタイの大洪水により、ホンダやパナソニック電工など、操業停止に追い込まれる工場が急増しました。自社工場は被害を受けていないトヨタも、部品調達先が浸水した影響で生産を休止、いずれも操業再開のメドは立っておらず、被害が膨らむ恐れが高まっています。

ロジャナ工業団地は首都バンコクから北に約七十キロのところであり、自動車関連や電機、半導体など日系企業を中心に約二百社の生産拠点があります。

団地内に四輪車工場(年産二十四万台)を持つホンダでは、浸水前にタイ政府の対策本部があるドンムアン空港の駐車場などに完成車や生産中の車の大半を移動しました。担当者は「いつ再開できるか分からない。かなりのダメージだ」と言っています。

タイ国内で年産六十五万台を誇るトヨタも三工場すべてで十日から生産を休止した。幹部は「日本からの部品調達が滞った東日本大震災の時よりも影響が大きい」と話しています。



東日本大震災で為替相場も大きく揺れました。大地震と津波が襲った三月十一日に東京市場の為替相場は 1 ドル＝81.89 円だったが、翌週になると急激に円が買われ、一時、海外市場で76.25円の史上最高値を付け、16年前に付けた最高値である79.75円を一気に更新しました。

為替は経済力の鏡といわれています。大震災によって日本経済が大打撃を被ったら、為替は円安に動いてもよさそうなものですが、逆に最高値を付けた。様々な要因があるかと思われませんが、その中で、市場で流れた解説は「レパトリエーション (Repatriation)」でした。為替市場ではしばしば使われる用語で、「レパトリ」と短縮されることもあります。

海外に投資している日本の資産が国内に還流することを指します。

つまり、東日本大震災が起きて被災した企業や個人が資金が必要になり、海外に投資していた資金を取り戻すのではないかというわけです。もちろん震災直後の三月の段階で海外の資産を売って日本に持ち帰る動きが出ていたわけではないので、あくまで、そういう動きが広まるのではないかという市場の思惑が働いたと思われま

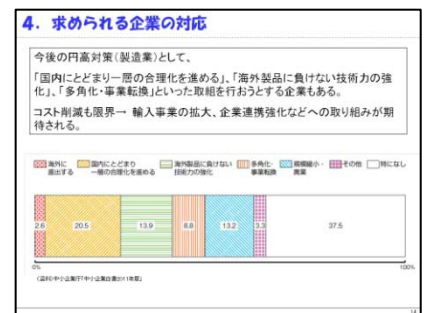


ドル円相場との相関性が高い日米短期金利差(米一日)は、米国の金融緩和が長期化すると観測から、金利差拡大の公算は低く、対円でドルが強含む展開とはなりにくいとの考え方もあります。

近年の各国の通貨供給量を見ると、日本だけが横這いで、欧米始め各国は通貨供給量を増やしています。そのため、金利差が無くなった今、通貨の需給関係だけで円が買われているともいえます。また、欧州のソブリンリスク、ギリシャをはじめとした南欧諸国に債務不履行が発生する可能性が叫ばれている状態では、対外債務の無い日本が比較優位にあるため円が買われ続ける事も考えられます。

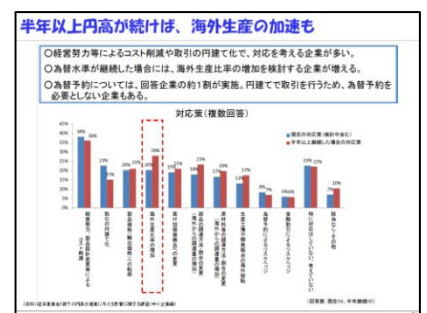


製造業における今後の円高対策として、「国内にとどまり一層の合理化を進める」、「海外製品に負けない技術力の強化」、「多角化・事業転換」といった取組を行おうとする企業もあります。コスト削減も限界→ 輸入事業の拡大、企業連携強化などへの取り組みが期待されます。



東日本大震災(サプライチェーンの崩壊) + タイの洪水(サプライチェーンの崩壊) + 円高(輸出製品の相対的高騰) + 欧州危機(金融危機の再燃)。これだけの不安定要因がそろえば、何があっても不思議はありません。

タイの洪水の影響により、製造業の日本回帰の動きも今後予想されます。見方を変えれば中小企業にとってはビジネスチャンスともいえるわけで、県内中小企業は自社の技術を見直し、得意分野に磨きをかけ、取引拡大が期待されます。まずは、成長分野への展開として国でも日本の強みを活かす医療介護、環境・エネルギー分野への支援を強化してい

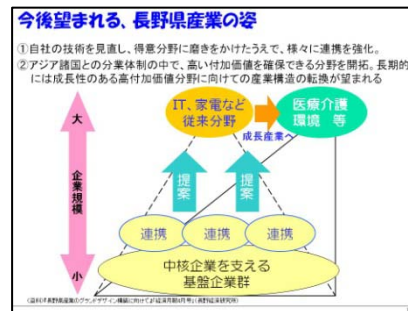


ます。ただ、自社単独での事業展開が難しい、もしくは限界があるとう場合も多いので、取引先や外部機関と連携を図り一体となった展開を進めていくことが望ましいといえます。今後注意したいのは、大変な不況に突入する可能性もまだ残されている点です。

リーマンショック以上の不況になる可能性も捨て切れません。

まずは自社の中身をもう一度点検しておくことをお勧めします。

・もう無駄は無いのか。・自社の本当の強みは何か。意外に判っていない場合があります。・資金手当ては十分か(場合によって先に調達することも必要です)



ニコニコボックス

塚田保則 本日は卓話をさせていただきます。よろしくお祈りします。

梅垣和彦・大橋正明・小口成人・小口泰史・尾関秀雄・小野 仁・笠原祥一・笠原新太郎・北澤洋之介・白鳥修次・杉田隆夫・瀬戸雅三・武井利夫・竹村一幸・中嶋孝一・中村文明・林 裕彦・林 靖高・原 史郎・藤森睦美・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫 寒さが厳しくなりました。くれぐれもカゼに気をつけましょう。

本日の卓話、塚田保則さん楽しみにしております。

宮坂 伸 富岡 RC 訪問時の写真をいただきました。ありがとうございます。

山崎典夫 創業記念月です。今後も宜しくお祈り致します。

出席報告

会員数 47 名、出席者 26 名、出席率 60.46%、前々回訂正 72.72%

2011-2012 年度 R I テーマ
こころの中を見つめよう
博愛を広げるために
Reach Within to Embrace Humanity

